

臨時 医療安全ニュース 9期/1号

ギャジアップは観察しながら！



Fig1:ギャジアップ前

- **ギャジアップ時に前腕を負傷させたレベル 3b 事例の概要**
 1. 手動タイプのベッドであった。
 2. ギャジアップ前に確認したときは、前腕は体幹に沿っておりはみ出しも無いことは確認していた。Fig1
 3. 少しずつ上げていくと両手でマットを掴もうとしていたが、手のはみ出ししているとは思わなかった。
 4. 屈んでハンドルを回していたので、異音などには気付かなかった。
 5. 「痛い」との声が聞こえたので直ぐに止めた。
 6. 同室で別患者を介助中だったスタッフが見たときは、ベッドの端から柵に挟まれた状態で手背面が見えていた。手首が負傷したと思った。
 7. 直ぐに柵を外し手首は大丈夫か確認した。
 8. 手首では無く前腕部に痛みがあり負傷させていたことが発覚した。

- **再現シミュレーションにて**

1. マットを掴もうとすると、頭が上がるにつれ腕が回り込んでくることもある。Fig2
2. そのまま上げると手背面が天井を向き、前腕が挟み込まれ尺骨側が柵に当たる。

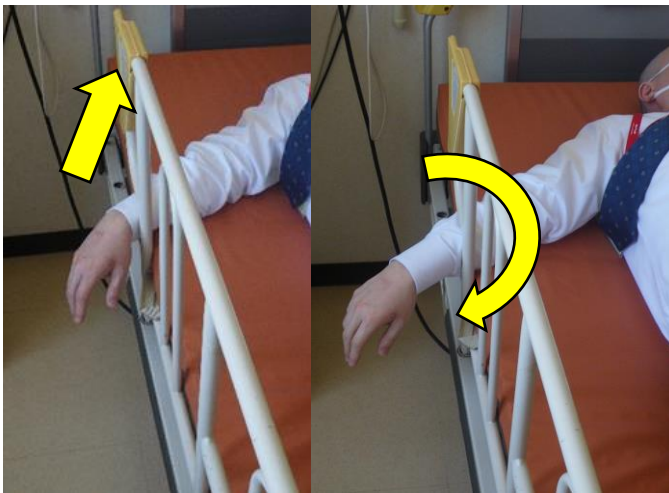


Fig2:前腕が回り込み挟まれる様子(ベッド・マットは同じ、わかりやすいようシーツは除いた)



- **誰でも起こす可能性がある事例です、再発予防策は？**

1. ギャジアップをする時は、患者の両手のはみ出しがないか観察しながら行う。
2. 患者の状態で、両手が動きそうな時は、1人が患者の手を把持、もう一人がギャジアップを行うとし、**複数で対応**する。

職員の皆様へ：お読みになりましたら下記ヘサインをお願いします。院内ラウンド時に確認させていただきます。